

事業コード	H17-建-継-10		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)湯沢雄物川大曲線		担当課長名	中山敏夫
箇所名	十文字町木下		担当者名	主幹(兼)班長 水木清博
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

## 1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H18 (4年)		総事業費	7.5億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	延長L = 1,580m 幅員(構成)W = 11.0m(2.5-1.25-6.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、湯沢横手道路湯沢ICへのアクセス道路としての役割を果たすとともに、農業をはじめとする産業物資や生活物資の輸送を支援する重要な路線である。</p> <p>しかし、現況は、バス路線及び通学路であるにもかかわらず人家連担区域において、幅員狭小(車道幅員4.0m)で線形も悪く、歩道もないため、大型車のすれ違いや冬期交通の確保が困難な状況である。</p> <p>このため、地域の交通の安全と経済・産業活動の活性化を図るため、道路整備を行うものである。</p>						
事業目的	<p>安全な生活環境の確保(通学路における歩道未整備の解消)</p> <p>物流の効率化の支援(湯沢横手道路「湯沢IC」)</p> <p>地域づくりの支援(市町村合併支援)</p> <p>冬期末改良区間の解消</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	780,000	750,000	-30,000			
	経費内訳	工事費	533,000	516,000	-17,000	盛土材を他工区流用土とした	
		用補費	177,000	166,000	-11,000		
		その他	70,000	68,000	-2,000		
	財源内訳	国庫補助	429,000	412,500	-16,500		
		県債	334,000	321,000	-13,000		
その他		0	0	0			
一般財源	17,000	16,500	-500				
事業内容	調査・設計 改良 舗装	調査・設計 改良 舗装					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、H17に一部供用(L=400m)を予定している。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業 横手平鹿8市町村合併協議会(H17.2.16設置)						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17.2.16に横手平鹿8市町村合併支援協議会が設置され、H17.10.1合併予定である。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	路線改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	90.5 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	86.6 %					
達成率 b/a	95.7 %		把握の時期	平成17年7月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
特になし				

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点		
必 要 性	通学路指定路線となっており、児童の安全確保のため、早急な整備が必要である。 当該区間は、幅員狭小(車道幅員4.0m)及び急カーブの交通隘路箇所が存在しており、冬期交通の安全確保のため早急な整備が必要である。	12点		
緊 急 性	通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もなく、通学児童が常に危険にさらされているなど、生活道路としての機能を果たしていないため、当該区間を早急に整備する必要がある。 市町村合併支援道路としての機能を有する。	10点		
有 効 性	沿線住民にとって重要な生活道路でありまた、通学路指定路線でもあることから、円滑な交通と自転車歩行者の安全を確保する上で整備後の有効性は高い。	23点		
効 率 性	事業の費用便益比は、1.99であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 851百万円 ・総便益の現在価値 1,696百万円 計画日交通量も3,100台となっている。 事業費については、盛土材を他工区からの流用土としてコスト縮減に努めている。 H17に一部供用(L=400m)予定であり、整備効果が発揮される。	20点		
熟 度	用地買収が完了している。 工事も平成18年度事業完成予定であり、事業進捗の熟度は高い。	18点		
判 定	ランク ( ) 地域住民の重要な生活道路であり市町村合併支援道路にも位置付けられているとともに、「必要性」「効率性」「熟度」が高いことから引き続き事業を実施すべきである。	83点		
総 合 評 価	継続	改善して継続	見直し	中止
	事業継続は妥当である。			

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。
---------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H17-建-継-10 )

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (十文字町木下 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	3	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	0		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	10	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	23	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
		なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	8	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	18	
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		